



琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 25 年度(2013 年度)第 1 四半期)

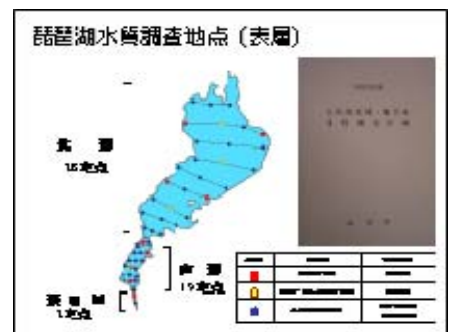
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 25 年度第 1 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



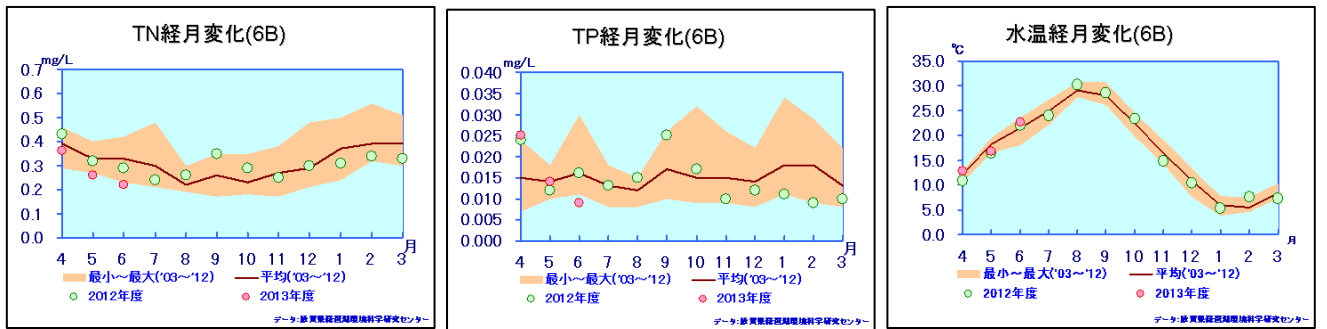
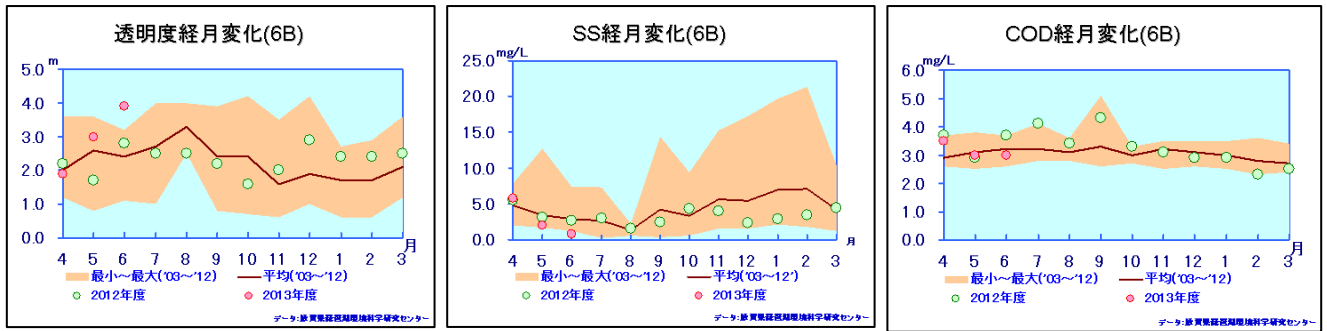
◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 25 年度第 1 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果

透明度については、4 月は過年度(過去 10 年間)並の値でした。5 月から 6 月にかけては過年度よりも高い値を示しました。特に 6 月については過年度最高値を上回る 3.9m となりました。透明度に影響を与える浮遊物質(SS)の推移を見ると、4 月は過年度並の値でしたが、5 月から 6 月にかけて過年度よりも低い値を示し、特に 6 月が透明度と同様に過年度最低値を下回る値(0.8mg/L)となりました。このことから SS の低下が透明度の上昇をもたらしたものと考えられます。有機物汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、4 月が過年度よりも少し高い値を示しましたが、5、6 月は過年度並の値となりました。富栄養化項目である全窒素(TN)は、4 月は過年度並みの値となりましたが、5、6 月とも過年度最低値よりも低い値(5 月 0.26mg/L、6 月 0.22mg/L)となりました。全りん(TP)は、4 月は過年度最高値よりも高い値(0.025mg/L)となりましたが、5 月は過年度並の値となり、6 月は過年度最低値よりも低い値(0.009mg/L)となりました。

水温は、4 月は過年度最高値と同じ値(12.8℃)となり、5、6 月は過年度並の値でした。



○今津沖中央調査結果

透明度については、4月は過年度並の値となりましたが、5月は過年度最高値よりも高い値(8.5m)となりました。6月も過年度よりも高い値を示しました。

浮遊物質(SS)は、4月は過年度よりも少し高い値でしたが、5月は過年度最低値と同じ値(0.5mg/L)となり、6月はさらに濃度が低下し過年度最低値を下回る値(0.2mg/L)となりました。

CODについては4月は過年度並みの値でしたが、5月から6月にかけては過年度よりも少し低い値を示しました。

全窒素は、4月、5月は過年度並の値でしたが、6月は過年度最低値と同じ値(0.25mg/L)となりました。

また、全りんは4月は過年度最高値と同じ値(0.007mg/L)となりましたが、5月6月は一転して過年度最低値と同じ値(5月0.005mg/L、6月0.004mg/L)と低くなりました。

水温は、4月は過年度よりも少し低くなりました。5月も過年度よりもかなり低くなり、過年度最低値を下回る値(10.4°C)となりました。6月は過年度並の値となりました。

